



地区の特徴

東谷の良いところは自然と、人と人のつながりを大切にしているところです。しかし今人と人とのつながりが少しずつ変わってきています。自然環境、生活様式の変化から支えあいや、見守りが昔の形を変えなくてはつながりが持たなくなってきました。また今後団塊の世代が介護難民となってきます。子育ても家族だけでは支えられなくなっています。地域の支えあいがどのような形なら、誰もが安心してくらすことができる東谷となるのかを考えていく必要があります。福祉委員会では、今後の8年間を見据え誰もが安心して暮らすことのできる東谷地域福祉活動を行っていきます。

福祉目標

東谷地区の人口、世帯数、高齢化率

人口などのデータは
→ [コチラ](#)



かわナビは
→ [コチラ](#)



ともにささえあうふれあいのまち・ひがしたに

地区の重点事業

重点
1

見守り・つながり・支えあい（居場所づくり）

重点
2

見守り・つながり・支えあい（仕組みづくり）

重点
3

見守り・つながり・支えあい（地域での助け合い）

重点
4

みんなに知ってもらう（広報活動）

重点
5

この指とまれ(人材確保)

地区別ワークショップでの意見

- ◇移動手段の確保（居場所に行きたい）
- ◇三世代の交流できる場所（誰もが気軽に集まれる場所）
- ◇不登校児の居場所
- ◇安否確認ができる体制づくり
- ◇避難訓練の実施

第4次地区福祉計画からの課題（平成30年度～令和5年度）

- ◇誰もが安心して立ち寄ることの出来る場所
- ◇自分の役割がある場所づくり
- ◇コミュニティ、自治会、民生委員・児童委員との連携
- ◇移動手段の確保
- ◇ボランティアの人材確保
- ◇福祉携帯電話の利用
- ◇自主財源の確保

現在の地区の取り組み

- ①小地域ふれあいサロン
- ②ふらっと・bの開催（認知症があってもなくても安心できる居場所）
- ③ハートフル・カフェの開催（障がいがあってもなくても安心できる居場所）
- ④カフェ・のぞみの開催（誰もが集える居場所）
- ⑤ほっと・笑の開催（高齢者の集える居場所）
- ⑥あひるクラブの支援（親子の居場所）
- ⑦東友会の開催（高齢者の支えあい）
- ⑧フードパントリーの開催（子どもの居場所と子育て支援）
- ⑨子ども食堂の開催（子どもの居場所と子育て支援）
- ⑩「東谷のふくし」広報誌の発行
- ⑪福祉ネットワーク会議の開催（東谷の福祉課題や解決方法を話し合う場）
- ⑫避難行動要支援者支援の仕組みづくり



カフェ・のぞみ



あひるクラブ



ほっと・笑



ふらっと・b



フードパントリー



東友会



子ども食堂





目的

身近な場所に、誰もが気軽に立ち寄り、安心できる居場所を増やすことで、地域のつながりづくりを推進します。

具体的取り組み

- ▶ 各地域で取り組んでいる「小地域ふれあいサロン」の実施を支援します。開催場所の増加を目指し、歩いて行ける所での居場所づくりに取り組むと同時に地域でのつながりを作ります。
- ▶ 誰もが気軽に立ち寄れる「カフェ・のぞみ」、認知症の方やその家族の方が安心して話ができる「ふらっと・b」、障がい者の方が地域活動に参加できる「ハートフル・カフェ」などの開催で多様な方と出会い、自分の居場所や役割がある場づくりに取り組みます。
- ▶ 高齢になっても人とつながり、生き生きと過ごせるよう「ほっと・笑」を開催します。
- ▶ 「子ども食堂」の開催を通して、子どものいる家庭の支援と子どもたちの居場所を提供します。

目的

日ごろから声をかけあい、災害時や認知症になっても安心して暮らすことの出来る体制づくりを目指します。

具体的取り組み

- ▶ 避難行動要支援者支援の体制づくりをコミュニティ、自主防災会、自治会、民生委員・児童委員などとの連携を図り、日常の見守りの充実を図ります。
- ▶ 福祉ネットワーク会議の開催などを通して、地域内の関係団体・機関とのつながり、連携を深めるとともに、地域内の課題を共有し課題解決に取り組みます。
- ▶ 「フードパントリー」及び「子ども食堂」開催の中で、支援が必要な家庭を関係機関と連携して見守りを行います。
- ▶ 東友会（高齢者の支えあい）の活動を支援し、高齢者同士のつながりづくりを進めます。



目的

誰もが住み慣れた所で暮らし続けることができるよう、住民相互の助け合いの気持ちをもとに、ともに支えあう生活支援の取り組みを進めます。

具体的取り組み

- ▶ 広くボランティアを募集、育成するとともに、各関係機関とも連携をしながら、ここ・ほっと（ボランティア部会）の活動の拡充を図ります。
- ▶ 誰もが気軽に相談できるよう、地域の各居場所や開催行事に相談窓口を設け、地域における相談機能を強化します。また、関係機関と連携していきます。
- ▶ 認知症を理解するための講師（キャラバンメイト）活動の充実。

目的

生活に必要な福祉情報や福祉委員会の活動を地区内のみんなに知ってもらえるよう広報活動に取り組みます。

具体的取り組み

- ▶ 「東谷のふくし」や福祉委員会の活動カレンダーを定期的に全戸配布したり、活動案内チラシの掲示場所を工夫します。また、メールの活用やSNSを取り入れることにより、福祉委員活動のPRと福祉情報を発信します。
- ▶ 福祉講座を開催し、福祉に関する周知、啓発に努めます。

目的

福祉委員会事業を見直し整理するなどし、活動しやすい環境を整え、福祉人材の確保に取り組みます。

具体的取り組み

- ▶ 既存の事業を見直したりテーマ型で活動してくれる方を募集します。また、世代を問わず活動しやすく気軽に参加できるボランティア活動のきっかけをつくります。
- ▶ 三世代交流会を通して多世代の交流を図り、多様な世代が福祉に関われる場を作ります。
- ▶ 定期的に役員会及び委員会を開催し、活動における課題を共有し話し合うことにより、福祉委員が活動しやすい環境を整えます。

東谷小地区 地区別ワークショップ及び検討会議

日 程	内 容
▷ 令和5年 6月 8日	ワークショップ 開催
▷ 令和5年12月19日	ワークショップ 開催
▷ 令和6年 1月 9日	検討会議 開催
▷ 令和6年 1月25日	検討会議 開催

東谷地区福祉委員会事業一覧表

事業名	内 容 内容、回数、定期開催の場合は曜日	区分 新規・重点
1 見守り・支えあい・つ ながり (居場所づくり)	小地域でのふれあいサロンの開催 (自治会ごとの拠点)	重点
	ふらっと・bの開催 <第3木> (認知症があってもなくても安心できる居場所)	重点
	ハートフル・カフェの開催 <第3土> (障がいがあってもなくても安心できる居場所)	重点
	カフェ・のぞみの開催 <火・水・金> (誰もが集える居場所)	重点
	ほっと・笑の開催 <第1・3月> (高齢者の集える居場所)	
	あひるくらの支援 <第2火> (親子の居場所)	
	フードパントリー・子ども食堂の開催 <第1木> (子どもの居場所と子育て支援)	
2 見守り・支えあい・つ ながり (仕組みづくり)	避難行動要支援者の体制づくり	重点
	東谷SOSネットワーク(東谷安心ネットワーク)	
	福祉ネットワーク会議	重点
	東友会(高齢者の支えあい) <年4回>	
	関係団体及び関係機関との連携	
	3地区福祉委員会(大和、北陵、東谷) 東谷ブロック連絡会に参加 <年3回>	
3 見守り・支えあい・つ ながり (地域での助け合い)	ここ・ほっと(ボランティア部会)の活動	重点
	ボランティアの育成、啓発、研修会の開催	重点
	キャラバンメイト活動の充実	
	相談窓口の設置 (各居場所、開催行事時に設置)	重点
4 みんなに知ってもら う (広報活動)	広報紙の発行及び行事案内 <福祉情報の提供:年2回、行事カレンダー:年6回>	重点
	福祉講座の開催 <年2回>	
5 この指とまれ (人材確保)	福祉委員の研修及び定期的な役員会、担当委員会の開催	重点
	三世代交流会の開催 <年1回>	重点
6 活動拠点の運営	プラザひがしたに等地区福祉拠点の維持・運営	